

月出川柳の会 第一三〇号 令和六年五月二十六日

ちよっと蒸し暑くクーラーを入れての句会になりました。出席者十三名、投句者六名。嬉しい事に今回から新しく東矢しんこさんを迎えました。一段と賑やかな句会になることを願っています。小学生の句はまだ受け取っていません。

来月の句会は、

六月の句会… 令和六年六月三十日(日) 午前十時～十一時四十五分 集会所

題… 「ずるい」

五月の題「甘い」から

* 甘くなる心の施錠確かめる

伸子

(老いるにつれて何かと面倒になり、まあいいやと自分を許しがちになります。この気持ちの緩みを戒めることを、心の施錠確かめると表現されました。上手い句です。出席者皆さんの心に響いて断トツの共感句になりました。)

* おつまみはチョコでいいよと二刀流

てるみ

(中には甘辛二党流の何でもいける人はいますよ。だけどおつまみにチョコは珍しい。日本酒は何と言っても手料理です。これぞ川柳、軽いタッチで明るい気持ちにさせてくれる佳句を戴きました。)

* 政治家の甘い裏金手ばなせぬ

まゆみ

(裏金問題でただ今国会紛糾中。裏金溜めて脱税を計るとは全く選良どころかまるで選悪。手放せないからこそ規制と言う名のざる法作りに一生懸命です。時宜を得た時事吟を戴きました)

* 指なめてケーキ屋さんになると孫

早苗

(指なめての表現から孫ちゃんの様子が生き生きです。孫も婆ちゃんも夢満載。上手い句の作り方だなあと感心します。)

* ゆる甘に蜂の一刺し永田町

しんこ

(政権交代のないぬるま湯に与党の議員はどっぷり浸かって、考えることは自分たちの都合ばかり。国民は蚊帳の外。今こそ一刺し二刺しして目を覚まさせましょう。喫緊の課題を句にして戴きました。)

* 新婚の甘い時代は遠い過去

展行

(今ではじっくり漬け込んで、欠かせない美味い味。)

* 甘かったやっぱ熊本んスイカばい

まさひろ

(熊本ん早出しスイカは今や全国ブランド。スイカも社会の核家族化に合わせて小玉になり、甘みも濃

厚になりました。スイカ割りは難しい。夏はやっぱスイカですばい。熊本弁で句が生かされました。）
* 大金に脇が緩んだ二刀流
六郎

（一千億円超の途方もない高額契約にさすがの翔平君も金銭感覚が甘くなったのでしよう。そこを狙った一平くんの二十六億円の窃盗も桁外れ。凄い話ですが、翔平君の活躍には毎日ワクワク。）

* 羊かんの厚さ気になるおやつ時
和博

（物を分け合うときに大小は誰しも気になるものです。夫婦二人の中でも気になると正直な意見がありました。兄弟姉妹五人幼い者から順に選ばせたと言うやさしい思い出話もできました。心ほっこり。）

* 今はなし熟柿じゅくしにアケビと採れた里山やま

憲郎

（憲郎さんは球磨育ちとか、私は南阿蘇かつての久木野村出身ですが里山の風情は全くなりませんでした。開発が進みセカンド・ハウスとか企業の保養所ができて様変わり。だけど 友がいて里の景色は色あせず です。）

* 母の面会持って行きたい甘い物

芳子

（お母さんのツタエさんは九十七か八まで句を出して戴きました。施設にお世話になりながらもお元気とのこと。施設への食べ物を持ち込みは出来ないかもしれませんが、こっそり差し上げて。）

* ほろっとする甘い言葉にしてやられ

遊位子

（意味深長な句ですね。初心な乙女心をキュウピットの矢に射止められたという事でしょうか。だけど 幸せな今があり。目出度し。）

* あまいけどしつけはピリリおばあちゃん

雅子

（雅子さんのおばあちゃんへの想いが偲べれます。昔のおばあちゃんは、めりはりのある躰けをしてくれたものです。私の祖母の思い出は、昔話と帯の代わりにつたがすら蔦葛を腰に巻いた野良着姿です。）

* あの頃の甘い顔つき今いずこ

英代

（お互い様ですよ。今はあれこれそれで通る仲。）

* 今が買いたい言葉に電話切り

貴美子

（賢明な処置。詐欺もオレオレから進化して投資詐欺。何億も騙された人もいるとニュースあり。）

* 神風を待っているのね兜町

隆子

（鎌倉時代に起きた蒙古襲来を阻止して国を守ってくれた神風です。この風を先の大戦でも信じてアメリカと戦いこてんばに負けました。株も同様値上がりには神風を願っているのでしょうか。甘い。）

* 甘えん坊も成人し今納税者

桐子

(甘えん坊、暴れん坊親を悩ませた子も今は立派な社会人。頼りになります。)

* 羊かんをバナナ食いして満足す

洋子

(バナナ食いと面白い表現です。豪快な食いつぶりですぞかし満足でしょう。)

* 通りすぎ薔薇ばらの匂いにふりかえる

千恵

(昨年もこの場所で、甘い匂いをかいだことを思い出すと付記。少し前までジャスミンが香り、私も歩を止めて嗅ぐことがありました。情景が浮かぶくを戴きました。)

* 甘い甘いもうけ話にヤウラがある (分かってても欲が手を出す投資詐欺)

憲郎

* ああ暑い昼はスイカでいいけどな (夏バテか、それとも主婦の手抜きか)

てるみ

* 甘いなし性善説は過去の事 (と言いたくもなる今の人間社会。まるで末法世界。)

隆子

* 大好きよあなたただけど甘い物 (これぞ本当の甘い仲、おまけに名字もさとうさん。)

早苗

* 父母に甘えた想い胸あつく (老いるにつれてネジが緩んでつい感傷的になることも)

まさひろ

* 孫の顔見ればつつい甘い顔 (時に財布も緩みがち)

芳子

* ガンコ爺も孫には弱い甘い顔 (時には言いたいダメはダメ)

展行

* 果物も父母みんな甘い好き (果物は勿論ご両親は甘党なんですわね。)

雅子

* 新茶に甘いようかんホツとする (贅沢な気分を満たされます。)

英代

* 甘い夢あたりもしない宝くじ (使い方まで決めていたのに)

桐子

* 減量中つい手がお菓子甘い夢 (ストレス解消も大切)

貴美子

* 甘いババ嫁にかなわぬ孫の声 (どんなに可愛がっても嫁にはかなわないと付記)

洋子

* いい人と思いだまされ甘い罌 (蛍の歌。こっちの水はあーまいぞ が浮かびました)

まゆみ

* 衆補選甘い自民の足すくう (五議席完敗)

和博

* つなぐ手のいたわり世代清々し (若者の気遣い、清々しい光景です)

しんこ

* ダイエットあまい誘惑多すぎて (ついつい誘惑に負けると付記。我慢も腹膨れる技なり) 千恵

* 酸いも甘いも解らぬままに年を取り

遊位子

(見事な白の切り様に乾杯。締めめの句に戴きます。)

蛇足 (無断拝借)

日曜毎に朝日俳壇を読んでいますと、まるで川柳でもいいなと思う句が選ばれています。

* 母はなく母でもないがカーネーション (南国市 榎本なおみ)

* 春の雨女傘にて夫つま帰る (柏市 藤嶋務)

* 鳥の巢のとても手がでぬ一等地 (札幌市 伊藤哲)

人間を詠むのが川柳だと言われますが、文芸川柳では句意に人を詠み込む句が好まれている気がします。俳句と川柳を区別する垣根が取り外されていく感じですが。

文責 さとう六郎 (電) 096-384-3090